



遠西草木譜十八

タニミラカ 二十章



タニミラカ種ニク

三草



十四草
大種



十四草
三種カミタリ



空山兮

十五章



十四章
牙五種



カラスコロイ 十八章



スライセ本 十七章



沙淋
カクナ

スワルウチ

十九章



トイロ

トイロコステス行
十九章



第二章 第一種 千石ルカス



王不留行

第二章 第二種



第十一草

オ一。種ノカラミシメ取ベカカラミシメ

鼠類

デヨスノデスノ此カラミシメノ種類ヲ三種ヲ分ツニ後テ其オ一

種ノモノヲ「ベルグカラミシメ」ト云オ二種ヲ「ホレイ」ト云其似タリオ三種ハ

「カイルデ」ニ云シテ一名「メンタ」ストリユ云々其近シテ吾三種ヲ右草ニ記

シ先「ベルグカラミシメ」ヲ記ス

形

「ベルグカラミシメ」ハ低草ニシテ高サ一尺許ニ過ラズ稀ナリ許多ノ苗

芽ヲ分ツ其茎ハ方ニ結節アリ毎節圓葉對シテ「ハシリ」コシ及メリ

スモヨリ小ナリ葉茎底ノ細小毛アリテ其色ハ白ヲ帯ダ其香佳ナリ

其茎ノ最上ニ紫赤色ヲ帯ル花アリ花謝ノ後褐色或ハ黒色ノ子

ヲ結ブ根ハ鬚多シ終冬保宿ス

出處

山及多石ノ處峻岳ノ陰録ノ處ニ生ス「イタリヤ」「フランス」及ヒ

「イスパニヤ」ノ諸邦

生ヌ「和蘭」ニテ好草トシテ園中ニ種植セ奇

異ナル子ヲ生ス此草甚殖シ易シ

時辰 此草夏ヨリ香ク於年保持ス礼ト子トハ六月ヨリ種ニ至テ肥ユ

名義

此草カリシヤニカウミンテト云メ其功アルコトニテシメ義ナリ
ラテシニカウミンタト云「アピユウス」ハカントスリユト名クレル名目
ノ條私錯混スルカ考ニ我徒ヤ一種ラベルグカラメシト云「ラテシニ
モ」タナカラミンタニ元カウメンテユムシメタムニ云「ラシス」カウメント云

性

味辛クク燥カ如シ熱ノ氣微細ナリ且燥オ三度ニ至ルトガシユス
カ説リ如シ〇稀薄液ヲ化シ粗澤ヲ分利シ且稀薄ス

主治

此草ヲ單味ニテ食シ或ハ服用シ又ハ蜂蜜水ヲ以テ服スハ身
體ヲ甚温メ通身發汗シ分利シ燥乾ス瘧ノ寒熱慄其時ヲ
止運ハズ發スルモノハ油ヲ以テ煮テ身體ニ擦ル地ニ摩捺ス又シ〇

此草水或酒ヲ以テ煮服スハ尿ヲ利シ月経ヲ通シ死胎ヲ下ス〇又ハ吐
蕩ヲ作テサシ或ハ外傳ス〇煎治ノ如シメ服スハ高ヨリ墜テ跌撲傷

損スルニ良シハ其處血ヲ利スルカ考ナリ又呼吸短迫胸中閉塞スルニ
良シトガレシユスカ云如シ子ヨクテス〇腹痛ヲ治レコレヲ治ス

ト〇又黄胆ニ甚自ニ見其^{肝膽ノ}開ヲ開カカ考ナリ〇此草酒ヲ以テ
服スルハ諸毒ヲ拒グ又内服或外用ノ嘔吐ヲ助^{ナシ}且^{毒ヲ}

驅^ス又之ヲ燒テ或ハ撒スルハ諸瘡及毒ヲ驅ル〇又罽^ノ打撲ノ

青色トナルヲ治ス又酒ニ浸シ以テ瘡痕ノ黑色ナルヲ甚白ナラシム
カレシユス曰此草^{外傳スルニ}新ナルハ乾枯セルモノヨリ其功烈ナリト〇益或

蜜ヲ以テ服シ又ハ食料ニ入レ煮食諸^{毒ヲ}體中ニ殖スルモノヲ驅
ル〇此草ノ汁耳中ニ注ケハ耳聾ヲ殺ヌアリユス曰此草ノ汁ヲ白昇

中ニ注テ血ヲ止ムト〇^{テヨク}テ曰根ハ^{無功}屬ストアリユス曰

カラミシラ
以テ聚ル
ニシテ名

メイリスユサトヲ和シ酒ニ煮冬温ニ過メ以テ咽中ヲ既テ喉風ヲ
及咽ノ堵塞ヲ治ス。パウリユスエギ子ト曰「テギインノ痛ニ水鏡トシ用テ
○此草ヲ搗キ腰ニ貼メ諸濕氣ヲ吸出シ又諸關節ヲ温ム。ガゴスヨリテ
曰此草ヲ瀕病ヲ患ル人服レ且食ノ甚良ナリ。宜ク午乳ノ上澄ヲ以テ
服スヘシト。アペユレイウス曰此草瀕病ノ屢用ル其效無疑ト
キヤカラミンテス 此草ヲ以テコムホシテイニ一名マンテドチユスヲ作り
心異名ソカラミンテトスフコガレニユスカ攝生法才四卷ニ之ヲ記ス。○
是物翅ニ消食ノ良ナルノミテラズ点庭女ノ月経不順ヲ治ス。宜ク他
ノ下劑ヲ以テフヘシ何者^{和劑}長服ノ一二ノ思迫困難ナキ寸八月
毎則来ルナリ

附言

此草ヤタリヤニテ多クマラ用ユ即チ名ニアラメント一名メンテチキ
ト云○此草外傳ノ甚刺戟シ先ツ甚温メ且侵蝕メ而后泡ヲ發ス。カレシユス

カラミシラニ、猪種ノ中ニモ此ベルクカラミント稱譽ス。○乃其温製スルモノ
ヲ「ヤカラメンキユム」一名コムホシチユト云フ又カラメントノ舍利別ヲ野生ト
園ト名ホカヲ以テ之ヲ作り以前物^{和劑}缺乏ニ供スルニ良ナリ。○又此ヲ以テ
膏及糊劑ヲ作り腰節、貼メ痛風ノ患液ヲ裏ヨリ表ニ發
出ス但レ皮膚層ヲ侵蝕メ泡ヲ發ス。○是月経ヲ起發スルニ大功
アリト雖凡再切ノ劇烈ナルヲ以テ妊婦ノ疑アル婦人ハ尚之ヲ要セザル
ナリ。○此草ヲ乾スハハ滲透^{和劑}及温熱ノ功
最強シ但レ之ヲ多ク毒^{和劑}ノ刺傷ニ用ルハ猶大傷劑ニ用ルカ如シ其
辛熱シテ氣氣微細ノモ外面ヨリノ^{和劑}流注且深侵液ヲ引出スベシ
アリニ云曰此草ヲ搗キ腰ニ貼ス之ニ三分一ノ蒸餅ヲ加ヘザリ
餅ヲ和ノ頭ニ貼メ頭痛ヲ治ス

第十三章

オノ種ノカラミンタニ名ウサルデバレイエ

對林 イヨカウジエ

形状 莖長サ凡一尺半許幹林ニシテ方ニ結節ヲ分チ直立セズ多
分地上ニ低ニ垂シ其每節ヨリ葉ヲ生シ兩ニ相對シ圓ニハレイエヨリ
圓天ニ且白シ軟ニ柔毛アリテ之ヲ覆フ○花ハ同一ヘ子ニテレンノ
如ク葉上ニ環集スルハバレイエノ如ク其色白シ但其兩面紫色
ノ斑點アリ根ハ鬚多シ

出處

此草多ク荒田或穀類刈獲ノ処及高陽ノ地ニ生ス

時侯

夏月莖ニ秋刈リ收ム最宜シ

名義

和蘭ニウサルデバレイエト云フ其名ウサルデニ云フ是カラミンタノ

○葉局ニ別
ニ子ペト云
モケレト

一種ニ疑フシテ子ヨスリテスハ之ヲ「ゲレコンアグリヤト云フ」ラント云フ
シリユーステレ云々多分ニ之ヲ「子ペト云フ」アピユスニ其名ヤ九十四章ニ
「ミンテアグリヤト云フ」イタリヤ「子ペト云フ」今ハ「ホテルラト云フ」ゴ

ドイツニウヤルドポレイトスフランスポウルリトサニアゲト云「イスパニヤ」
「子バダ或ハ子ヘダト云ベームス」マリユハポレイト云

性 カラミンタノ一種ニテ温ニシテ燥ナリ

主治 ベルグカラミンタト等シケレテ弱シ何者カレニスハベルグカラミ
ンタヲ以テカラミシタト諸種ノ最切トナス

附言 熱國ニ甚多シ之ヲ乾サネトシ以テ食料ニ多用ユ又葎劑
ニ用ルルハベルグカラミンタトノ缺乏ニ供レ代用トサシタト多用ユ

種類 此草ノ一二ノ種類ヲ將未スルヲアリトイヘ凡要スルニ其分別
其大サ或ハ色又ハ具色ノ灰色ナルニ違キズ如此ノ分別アリトイヘ凡

究竟其一ヲ知ルハ他ハ自ラ理會シ得ヘクシハ無益ニ属スルカ
為ニ敢テ論ヌズ

主治 此草熱國ニテ多ク腹痛ヲ治スルニ用ユ中ニミ之ヲ屋瓦ノ上ニ

乾シ木綿囊ニ入ル之ニサク熱酒ヲ注テ以テ腹ニ案置スヘシ

乾シ木綿囊ニ入ル之ニサク熱酒ヲ注テ以テ腹ニ案置スヘシ

莖十四音草

オ三種ノカラミンタ一名カツテコロイト

根草香

白衣者

品類

カツテコロイトハカラミンタノオ三種ナレモ又オ多ニ二様ノ種具葉ノ廣狭アリ

形状

オ一種真ノカツテコロイトハ直立ノ其莖高サ二尺許方

ニ線條アリ許多ノ枝ヲ分ツ葉ハ濶クメ周回ニ刻列アリメリ

スセ又ハ「マルロー」ハ似タレモ箱長シ花ハ淡黄ニ白ラ帯ヒ一カハ

オ上ニ環玉シ一方ハ其オニ楮箬スルヲ穂ノ如ク也リ根ハ盤茂

ン許多ノ鬚ヲテ長ク保宿スノ全叶ノ葉茎氏ニ軟ニシ灰色ノ柔

毛アリレモ「ウチルデ」ニテ一名「メンタ」ストリユムノ如ク是シカラス香ハ強

クノ重ク「獨通」ニハカラス味ハ辛熱ニシテ苦味ヲ帯ブ

オ二種ノカツテコロイトノ葉長クメ狭ク其色甚白カラス莖亦方ナリ

花盤茂ニ微赤或紫色ヲ帯ヒ小ナル紫斑アリ香強ク味ハ辛

水蘇

一種モノヨリモ辛シ

出處

尋常カツテコロイトハ野及園ノ端土堤渥及道傍ニ生テ好テ下

濕ノ地及園ニモ生ヨク育ス

オ二種ハ或人云ハ「ハ」ニ自出

生スト

時辰

初春萌出スレモハ月ニ至テ華サク

名義

我徒之ヲカツテコロイトトシテ「カツタリヤ」レ「ハ」バカツテト云

其名クル所ノモノハ是ノカツトノ此叶ヲ甚好ムヲ以テリ何者此草ヲ

香ヲ愛スルカ者ニ之ヲ展布スルハ則味リ磨瓜ニ乃其処ニ絶倒

ス豈天ノミナランヤ又後テ其液及葉ヲ食フノ葉局「子」ベト

云其真ノ子ベト一名「子」ベトハ是ノウチルデハ「エ」ニテ前章ニ記スル也ナリ

カト人名其作園ノ也ニ「ベリ」キユラト云フ一草アレモ我徒ノ稱スルカツテコ

イトナルカ或否ラズヤ未詳ノ「ホ」ゴドイツニカツトセンニユツ「ハ」ニ視蘭ニ

カツテコロイトト云イハル「アラミンゲン」ニテハ子ブテト云イメリヤシニテ
 カツテコロイトト云イハル「アラミンゲン」ニテハ子ブテト云イメリヤシニテ
 「ヘルベデカウト」ト云イハル「アラミンゲン」ニテハ子ブテト云イメリヤシニテ
 「オ一種」モノヲ「カツテコロイト」メット「ブレイデル」ブラーテレン
 「名」ゲメイン「カウテコロイト」ト云イハル「アラミンゲン」ニテハ子ブテト云イメリヤシニテ
 「スマルレブラー」デレン「名」スハンス「カウテコロイト」ト云イハル「アラミンゲン」ニテハ子ブテト云イメリヤシニテ
性 此艸ハ熱シテ燥シテ其功オニ種ノカラミンタレノ如シ
主治 久頭痛ニ良ナリ又胃及子宮疼又粘液杯及未熟
 ノ液ヲ来ル諸悪ヲ治ス。○此草ノ汁酒或ハ蜜水ヲ以テ煮テ
 損傷及高ヨリ落テ損傷シ或打撲ヲ治ス。○此草ヲ活湯ニ入
 婦人ノ之ニ入ルギハ月経ヲ利シ妊婦ヲ助ク
附言 古ハ此草ヲ「コロイト」ト云イハル又真ノカラミンチ云ハラカ直ニ「**附**
 言」ト云イハル

「カラミンチ」云ハルニ充テ用ニ供ス

品類 多ニ一ノ草ヲ以テ此草ニ充タルモノアリ是其出處ノ別

ナルヨリ他ナレシヲ碩學ノカルリユスクルシウス其異草譜オ四卷十九章
 ニ著ス其今ニ別種ノ草ハ此ニ充タルモノ多シ論セシ是其本章ニ記
 メルルテ「ミュンテ」一名「メシタストリ」云ハルニ充タル此草ヲ「コロイト」ト云イハル
 集セルヲ以テトス斯ニ記セン

「スパンセカウテコロイト」メット「スマルレブラー」デレン「此子ヲ曾テイスハ」

ヨリクルシウス「送」リ「オ一種」カラメンテ「名」ヲ以テ「人唯子」ノミヲ
 輸テリ是「蕙」フ「ニカツテコロイト」ト云イハル「好ナルナリ」其「茎」ハ「一尺半許」
 「方」ニシテ「結節」アリテ「數枝」アリ「葉」ハ「長ク狭ク周圍ニ缺刻アリテ」
 「白色」ニ「香」ハ「尋常」カツテコロイト「ノ葉」ヨリモ「強ク味」モ「烈ナリ」其「莖」
 「ニ穂状」ノ「花」ヲ「生シ」白クメ「尋常」カツテコロイト「ノ如ク」花「謝」ノ後「黒子」

ヲ其莢中ニ結ブ其子ハ甚カラシクニ似テ根ハ固クノ鬚多ク
保宿ノ毎年新サヤラ至六月及八月ニサヤク

オニベルガメンタストリウム一名オーストレイキセウナルデミニンテ 世種

其莖方ヲ高サ一尺許或ハ其ニ進退ニ隨^{ハル}其^中ニ滿チ許多ノ節
節アリ其每節ヨリ又ニ莖ヲ出シ兩ニ直對シテ方ナリ其最上ニ
長穗ヲ生^ル環状ノ花其^中ニ丸クワナルデミニンテ^ル或カッテ
コロイトノ如シ此ノ如シ色白ク其香佳ナリノ葉^ハ節^ノ節^ノ枝ヲ
周リテ短莖ノ上ニ正對スル^ク強ク^クワナルデミニンテ^ルノ如ク^シ氏夫ヨ
リ多クカッテコロイトニ似テ^ル尚其色ハカッテコロイト或ハ^ハル^テコ
ニテヨリ白カラス^ル此^レ元其香ハ悉^クノ^ハル^テミニンテ^ルニ似テ其味ハ^ハル^テ
熟^テ根ハ硬ク^ク如ク^ク兩脇ニ^ニニ^ニ芽ヲ生ス^ル諸種ノ草等シ
○此草オーストレイ^ク國名ニテハ九月莖ク^クホ^ノガ^リイ^ニニ^テモ

此根カリエラウテンニメシタストリウムモシタヌムハンノニキユト云

オニ種 ミニンテヤトコツベルアグナヘウナルテ^ルヲアテン^ニ是草ヲ

クルシウスハフメンタストリウム ^ハ云^ルクルシウス^ノ曾^シ子^ヲ

ハスハニヤヨリ送^テ曰^ク是^レイス^ハニヤ^ノ野^ニ自^ラ生^ス其^レ莖^ハ高^ク
一尺半許方ニ直シテ許多ノ節節アリテサク毛アリ^テ其^レ葉^ハ纖^ホ
ニメ^ク文^{アリ}周^圍ニ^ニ缺^クア^リ前^種ト^モ甚^ク遠^クカラ^ス此^レ元尚^モ灰^白色
ニシ其^レ香^ハ佳^ナラ^ス其^レ味^ハ苦^シ每^節兩^ニ正^對シ^テ根^ヨリ^兩出^スル^ク其^レ
莖^ヨリ^生ル^モヨ^リ丸^クニ^ニ潤^シ其^レ莖^ノ最^上ニ^ニ軟^クシ^テ灰^色ノ^ノ穗^アリ^テ
テ^ハ小^葉ヨ^リメ^成ル^其間^ニニ^ニ環^状ノ^花ヲ^生シ^其ヨ^リ白^花ヲ^生ス^ル
フ^カッ^テコロイト^ノ如^ク花^ノ謝^レ存^在ノ^小黒^子ヲ^結ブ[○]根^ハ太^クメ^軟ニ^強ト
リ^テイ^ムノ^如シ^外面^ハサ^ク褐^色ヲ^帯ビ^兩脇^ニ多^クハ^ハル^テフ^レシ^ト
生^シ別^ニ多^ク鬚^ヲ生^ス根^ハ終^テ太^クシ^ス其^レ小^クナル^テ根^ヲ

取テエ中ニ挿ス寸ハ新芽ヲ生スルヲアリ〇六月華クハハールスハクレン

ドール此文見ユ其処ニテ之ヲ或カラシメテルヤニ充ルモノアリ其形状
ノカツテヨイトト相違フヲ甚遠シ

主治 婦人此カツテヨイトノ露滴水ヲ甚用ユ又此ヨシゲボルトニ

或葉ニコニス及サウトトヲ取スハ翅ニ其香ノ佳ナルノミナラス尚神
経ヲ強壯ニシ内蔵ニ甚良ナリ

第十五章 **ゲリュウ** 一名ミルレホリユム **香** ハゴロモツク

形状 其茎 大抵直シ濃藤色ニメ圓ク硬シ高サ一尺半許茲ヨリノ長
葉ヲ出シ兩脇刻甚深シ許多ノ葉々相連ル茲ヨリノコリアンテルノ葉
ノ如キ薄細ノ葉古ク稀ニ所着ス其茎ニ圓ク濶キ射ヲ抽出シ許多ノ白
色或燃色ノ花ヲナス根ハ許多ノ鬚ヲエ中ニ芽ス〇全草香重カラズ然
レ反サクメ勝カクマ此音又アセレイアグナフナリ

出處 此草野園ノ及畠邊ニ生ス又野外ニ蔭ク処ヨク濕潤ナレハ

果實 白花ヲ偶ス

時辰 五月ヨリ深夏ニ至テ花ヲナシ子其甲ニ熟ス

名義 シ、ラテンニシテ多分シルレホリユムト云トイセントブラードト翻ス「チヨスコ
リテス」之ヲアシルレオス「反アシルレヨス」デリテ云云「ラテン」アシルレア「又
アシルレア」デリテ云云此名「チヨスコリテス」ト云ト「府令」モ「志明」譯ナリ

オカシキスナキ
名原

アヒルニス 人名

其知推ノ氏センタニシルオン 人名

世子ニ始テ此草

ヲ得其功ヲ和ルガ為ニ之ヲアヒルニス或ハシテリテニ云トアリニユ
其ニ尤五卷ヲ五章ニ説ケリ又曰ロメイシニ之ヲシルレホリユト云フト
爰ニ尚多クノ他ノシテリテニスルモノアリ又一種ハナケスハラクレヨシ
トシモノアリ其処ニ就テ之ヲ論セシ○アヒルニス此草ニ種々異名ヲ
附シテヨスコリテニスモ其ノ類名ヲ属セリ耶チヨリシヤニメイリヨヘ
イルロニメイリヨモルオンシリオペイルロニスタラチオチセレレイシト云
ラテシニニリキリスレセルリユチリスアクリユム或アクリユムハチキユム
ト云掃脈私ノ一語ニベルロカンデムヒゲンチヤナト云今ホドゴドイツニテ
ガルベンシスカルフガウスニスカルフリップレタウセトブラットト云和蘭ニゲリユ
ト云イタリヤニシルレホグリヨニスパヤニシルホイアスエールハトフラス
ニルレヒューイルレト云アヒルニスニハルロウエローセブレットト云ベームスニセ

ブレイセキト云

性 ガレニスノ説ニシテ

レリテニノ功ト違ズ即將論シ中尋ノ其ニ

此草又他功收斂ノ功ヲ兼ヌト

主治

此葉乃花ノ上方ノ処ヲ搗キ金創ニ貼メ血ヲ止メ諸瘡熱ヲ拒キ

腫瘍ヲ治スルヲ其速ナク又下血ヲ止ム○赤婦人ノ諸崩流ヲ

止ム宜ク分傳シ或ハササシ或ハ之ヲ煎シタル湯中ニ堅セシム○又煎

服ヲ下利ヲ止メ且赤利ヲ治ス○諸本草家ノ説ニ此草ノ葉ノ中ニモ

尚新種ニシテ或ハ食スルハ對癆ヲ和散スト

附言

此草モハシテリニスル名ヲ与ル諸草ノ一也是前ニ云ルニシテリニスノ

通名ニテ鉄器ヲ以テ損傷スル瘡ヲ治スルニ功アリトスルヨリ他ナシ是好草家

ノ和ル処ニ水ヲ生ルテ今斯ニ論セシ是以或ハ

アルルニ或ワニテルドイセントブラードニシルホリユムアクフチキユムト云耶チ一

ワートルヒオリオント云々ワートルステールト云々アリテ其花白シのオニハワートルドイ
セングラードハヘンケルノ葉ヲ其花赤シテシニ「ミルレホリユムアクワチキユムホレイス
フーニキユリト云々のオニカ」ワートルドイセンド云々ヘンケルノ葉アリテ「ワートルレイヘルコロ
イトノ花アリのオニハ」ワートルドイセンド「黄ヲ頸立セル花アリ有餘此等ノ
類ノ如シ」○ベルグアシルレニ名ゲルウエメットゲルブルメン此ワートル
知ニローベル尚ゲルウエノ一種ヲ著シテテシテシテアシルレアモシタナアルテ
ミシヤテニエイホリヤシト名ク是美ナル草ニテ「ランギウドク」云々其処ニテ七月
及八月美暉アル黄金色ノ「ゴロンケン」云々ヲ生スル「ゲルウ」如クヤク吾徒祇々
ル処ノ「タルミカ」似テ攢簇セル細茎ノ上アリ高ク一尺許○~~花ハ小シ~~
本ノ葉ハ「シゲリチスアシルレヤ」或ウケルリイケンテゲルウヨリ小シメ受スベク
軟ニ緑色アリ「クウデル」似タリノ根ハ小シメ小コロイスコロイトレインハル
或アヘロー子ニ似タリノ子ハ「瀧長」アリ○ローベル此草ヲ「ゲルウ」トアシルレヤ

シゲリチストノ分別ヲナス其言ニ云「ゲルウ」ハ真ノアシルレヤヨリ小シテ
其茎直立シ「アロイ」ハ根ノ葉アリテ「ハレント」ト「ヒリ」デユラトノ間ニアリ
肥シテアシルレヤヨリ甚小ナリ○「ド」子ウエハ此分別ハ甚注意ス又此言
ヲ貴ヒルハ是疑ラクハ出處ノ相違ニ由テ此ニ草ヲ生スル「ラ」○「ゲルウ」
ハ「アロイ」又「アロヘン」セシニテハ「アロ」ニ灰白色ニ「サ」名アルモノヲ見ル
「クル」ウスノ「ゲルグアシルレヤ」是低草ニテ許多ノ「アロイ」ニ「根」ノ葉アリテ
ガク灰色ニ「人」色ノ花アリ根ハ尋常ト相違シ許多ノ「根」アリ深ク沈
マズメ長ク地上ニ遠ク是ヲ「ミルレ」ホリユムアルピニ「ト」名ルハ「ステイルマルク」ト
山ヲ看カ者ナリ
「ゲルウ」ノ分別「クル」ウス此草ヲ分別シ「根」及「葉」ヲテテ之ヲ徴
ス何者或ハ甚キ雪白ノ花ニ中間灰白色ナルヲ見或ハ赤ク美ニテ受スベキ
アリ或ハ白赤相間スルヲアリハ極ニ花アルヲ後人色トナラ見ル

五五 根ヲ咬ニ或久ク口中ニ含メハ齒痛ヲ散ス〇 〇 實効トシテ記シタルアリト云ル

露滴ニ名水ヲ空心ニ三ニキヲ服シ温ヲ温暖ニス〇其露水滴ニ水殺最ノ功アリ〇多ク濁血スルニ由テ其人色淡白ニナリ或ハ其色損失スル人此水ヲ用ルニ即恢復ス〇又新創ヲ洗テ即アリ〇此草ノ葉鼻中ニサレテ血ヲ去但シ之ヲ水鏡トナシ用レハ赤利ヲ去〇白花ノゲルウニ花ヲ搗キ同ゲイテンメルクシテ露滴ニタル水ヲ服シ男子ノ尿ヲ散シ婦人ノ帶下ヲ治ス〇 ゲルウニ 銷銀家ハ此草ヲ種々ノ其美正露水滴ニエキスヲラケト及ガットトナス是前ニ云ル諸患ニ劇是ノ功ヲ保ス

第廿六章

ケレイ子ゲルウエマツトゲレフルメン

ヒノバゴロモ 日光山産

形 小ゲルウニハ其低キ小草ヲ高ク一スパン子 其茎ハ鐵モニ其

ハニ両端切截深キ葉ヲ以テ覆ヒ小鳥ノ羽ノ管ヲ如ク其 中ニ取骨

アルノ管ノ如ク其両端ニ秋葉アリテ其名小羽ノ如シ其茎上ニ赤對アリ

テ許多ノ黄花アリテ和蘭ニ其長育スルヲ見ル〇根ハ細クノ鬚多シ

出 出宇 此ゲルウニノ種類ハ更ニ稀ナリ乃膏膠ノ地或ハ曠野ニ生ス

時 八月 此草ヲ得ルニ多ク花ナシ

名 義 新本草家ニケレインゲルウニ又ゲレゲルウニト云ル者及痛夫ハ

テシミシルレホリユムニエス或ミルレホリユムニエト云ル者及痛夫ハ

シラス又ハヨスコリテスノスタラチオテスゲルウニラギリシヤニテスタラチオテス

シリオヤイルロスニ是ハイテルスコロイドニドイセントブラードノ異名ナリ其草

小樹ノ如ク高ク一スパン子又具ク高クモアリ葉ハ小鳥ノ羽ノ如ク其葉

ノ嫩芽ハ甚短ク且切截シ短カサ固ク及粗糙シクワサレドコメイシク如ク
加之ハ尺ヨリモ短シク其花ノ射ハ花白クモ肥満ス何者其最ニ小芽及
小莖アルヲア子トスノ如シク花ハ小ニメ白シク此草ノ高サ及葉ノ形
状凡此書ニ同シ其花ノミハ吾後サク考アリ此草ハ白シト云ヘテヨ
スコリテスルノ根本ニモ然クアレバアンデレヤスマキナ^{人名}ハ古ノ諸草ラミルニ白
カウキルノ根本ノ如シ但具色黄シク而ノ此草ニ記スル草ニ甚ヨク符合ス
○又多ク一種スタラテオテト云モナリ具名ヲ^同ホタミオト云テ我水
草ノ部ニ之ヲ記セシ

性 小ヤルウエ^ハハ中等ノ寒ニシザク収斂ノ功アリ

主治 赤痢ヲ止ルニ大功アリ○又新故ノ波膿腫ヲ愈スニ大功アリ
○又創ヲ治スルヲ速タルヲ甚シク○又此草ヲ^同樓ニ用テトガレニユ
スヘリ

附言 碩芋ノカロリニスルヤウエ^ハカエフ処ハ其大ク及根ニサハ差違アリ
ト雖凡其出田本草譜オ之卷九八章ニ此草ヲ悉ク記セリ曰園ニ
テモ歸ニテモ之ヲ蔭ケハ乃成ルト○是イハスバヤ^同及フラスノ歸ニアリ
トゴドイワシニテハイハスバヤ^同ノ種子ヲ以テ其園ニ種ユ○^同ベルクアルヤ
一名ゲルウエ^ハノ黄花ナルモノ此草ト形状大ニ似タリ也^同凡^同クルウエ^ハノ
苗^同ゲルウエ^ハトノ記スル故ニ^同積^同之ヲ^同前^同章^同ノ^同附^同言^同ニ^同記^同セリ^同何^同者^同其^同園^同アリ^同テ
其^同説^同ナシ^同其^同葉^同ハ^同甚^同小^同ニ^同メ^同ア^同ロ^同イ^同ニ^同林^同ニ^同種^同後^同ノ^同ゲ^同ル^同ウ^同エ^同ト^同ル^同ナ^同ラ^同ス
ト^同子^同ウ^同エ^同其^同処^同ニ^同之^同ヲ^同説^同ク

主治 諸本草家ノ之ヲ^同悉^同著^同名^同ス^同曰^同此^同草^同ノ^同功^同尋^同常^同ケ^同ル^同ウ^同エ^同ノ^同如^同リ^同加^同之
^同高^同郎^同ク^同アル^同レ^同ヤ^同ノ^同如^同シ^同翅^同ニ^同寒^同國^同アル^同モ^同ハ^同甚^同芳^同香^同ナ^同ラ^同ズ^同其^同功^同少^同ク^同弱
キ^同ノ^同ニ^同其^同熟^同國^同ニ^同生^同ス^同者^同ハ^同実^同ニ^同ス^同コ^同レ^同ゲ^同レ^同イ^同ト^同稀^同ノ^同香^同ア^同ト^同是^同其^同收^同斂^同及^同愈^同合
ノ^同功^同増^同減^同ハ^同詳^同ナ^同ラ^同ス^同○^同其^同一^同種^同ノ^同缺^同乏^同ニ^同遇^同ハ^同宜^同代^同用^同ス^同ヘ^同シ^同○^同此^同草

汗吐血及一二ノ内尿管ノ破裂ニ用テ大切アリ此婦人ノ経年一ニノ
 崩流ニ苦リモノニ切アリ○此草ヲ乾シ末メウエーグブレシ或コンソリダマヨル
 ハホラ以テ服ス○此草ノ花及籽ヲ搗キ同イテメルク或ウエーグブレシノ水
 或ハ此草ノ露滴ヲ以テ服スハ婦人ノ帯下男子ノ遺精ヲ止ム○或ハ右
 ノ液汁ニサノ赤コラールレアルベシ他家ノ魏骨ヲ加ヘ右ノ病ニ用エ○此草ノ
 禾ハ美シボリユスアルメナ一ニヲ加ヘ牛乳ヲ以テ三月服スハ血尿ニ大切ア
 ラシ○此草ヲ搗キ水及塩或醋ヲ以テ服メ高クノ墜タルニ大切アリ
 此淋疾及膀胱ノ病^{短息ヲ治スルニハ}蜜水ヲ以テ服ス○又此草ハ
 此ヲ治スルニ劇甚ノ切アリ其アルヒスノ名ヲ得ル所以ノ者ハ大勇
 士アルヒス^{貴人ト云義}又其人ノ名ヨリ出タリ其勇剛活計ハ^和アトヘメリユス之ヲ記ス
 何有アルヒス此草ノ切ヲ始テロシタウリユスノシリヨシニ教ヘタリ其新
 古ノ此ニ用ルハハドノ子ヲスシ又此之ヲ記セリアヒユレウハ日語ノ^{鬼性}
 潰瘍及^{痔瘻}ノ病ヲ治スト

オ十七章

オセイリス

地層ニ近シ

形状

オセイリスハ^ハチリ長キ一ヤメ許多ノ枝ヲ分チ其高

サハ一尺許又天ヨリ高キフモアリ色ハ淡緑茎ハ大抵細クシ

圓シ葉ハ長狭シ細クアラシク知シ花ハ小ク葡萄ノ如クニ

シテ葉ニ連リ色ハ白ク或ハ黄ナリ花謝メ后小黒子ヲ

結ヒ細毛アリ根ハ形頗多シ

出處一此草多ク分ガリシヤヨリ輸ス其ノタリヤシノ處ニノ

園ニ種植ス

時度 夏月花子秋子既也

名義 イタリヤシニベルヘテト云「カリシヤ」ニ今テ「ベルヘンナーム」

ヲ以テラウアウクセイリスト云ト「アングイルララ」ノ云フ処如シ

何者往時ハ「カリシヤ」ラテシニテモ之ヲ「オセイリス」ト云古ヨリ

今ニモ「カリシヤ」ニテ云能此州ヲ以テ皆帯トナスヲ知テ之ヲ制ス

性 カレニユス云味苦ク閉塞ヲ開達スト

主治 此草脾ノ閉塞ヲ開クニ大功アリ「〇」ヲヨスコリテ云水煎シ

眼ノ黄胆ヲ治スト

殊用 此草以前ニ云フ処ノ如ク「カリシヤ」乃諸邦ニテ皆帯ヲ製ス

附考 ロールニ云「ト」子ウタハ「前」章ニ所謂「カリシヤ」語

ノ「オセイリス」云「アングイルララ」及「イタリヤ」人ノ「ベルヘ」テト

名ルモノ、之ヲ得テ其景色甚ク美帯ト云ヘリ其美

ハ則チ「美」ナレ「イタリヤ」人ノ記スルホト「美」帯スヘギ

モノニハ「アラ」ト人ノ「スコ」バリヤ「トリ」右クルハ「其」上「終」成ノ

皆帯トナレ用ルニ便ナルカ為メ「イ」許多ノ「葉」アリテ其長

カハ「フラス」ニ倍シ今ニ「緑」色ニ「ロ」ウ「イ」コ「ロ」イ「ド」ニ似テ

腐名

且易甚僅ガナルカ為タニイタリヤニテハ之ヲ園中ニテ好壹
ノ中ニ殖シタレ凡今時ハ則是饒多ナリ〇又或人ノ舌
ハリスピューアックスト云フモノアリ「カリシヤ」語、今之ヲ
アリクセイリスト云々「ローベル」野生「フランス」ノ「ヲ」釋シ
カ為タニ如キ種類ヲ況テ此名ヲ易中ニ載ス我易生ノ
「フランス」及「ナリポリウム」ノ^{「オ」}説カ^{トナラハ即チ}〇オ一種ハ「リ」ナリヤビ
ルピュレア「一名ピュルヘル」オセイリス「オニ種ハ野生ノ」オセイリス
オ三ハ「リ」ノ「オセイリス」ハ「ナリポリウム」ノ一種ナリオ四ハ「オセイ

リスピュルピュレオクスリユレアレヘニス」ナリ
「フリニユス」ノ「オセイリス」ハ是別種ニメ「クルシウス」ガ「カシヤ
キユオレユンダム」ト名テ易中其ノ其ノ諸一卷オ六十一「章」ニ載
タリ〇「オセイリス」ヲ「ウストリ」アカヒト別種ニメ「クルシウス」見
ル其ノ其ノ諸ニ卷ヲセニ「草」ニ記ス〇又後ニ尚一種ノ
「オ」ノ「スコプリヤ」ト云モノアリ「プロスユンクトリウム」ガ如シ我之ヲ
「オ」ノ「中」ニ説カシ

ト云目之壁或石地古壁及石地、其ノ地、其ノ地カ為シ故或カホ申テ或ハ之ヲ「ミユラリス

トモヲフ「プリミユス」及セルシユスハウヲ「ミユリユム」ト云〇「カリ

シヤ」ニテハ「ルキシ子」ルキ子「ルキ子」ト云又他糖ノルキシ子ト「ト果

名ヲ「シスガム」ヘロスト名ヲ所存ルキ子ト云「ルキ子」ト云「ルキ子」ト云「ルキ子」ト云

ヨリ名ヲ「常」ニ食料ニ供スルモノアリ〇「チヨス」コリテス「プリ

ニユス」及「アピユ」レウス「或ハ之ヲ「バルテ」ニヨシト云見真ノルテ

「ヨシ」ト云「大」ニ異ナリ此コト我前ノオニ卷ニ悉詳ニス

又或ハ之ヲ「フルセオ」ラリ「フルセオ」ラリ「ア」ト云又「ヒ」トラリ「ア」レ云

是和蘭和蘭ノカラスコイカラスコイノ義カラスコイト云「粗糖」ニテ硝子硝子蓋蓋ノモノ

ヲ「磨」磨スルニ良ナルカ為ナリ〇又「多」ニ數多ノ「カリ」シヤ名

アリテ「テ」ヨス「コリ」テス「フリ」ニユス「及」ア「プレ」ウス「等」之ヲ唱フ

云ク「シ」シ「デ」デ「リ」リ「テ」テ「ス」スヘラク「ア」一名ヘルキユラナ「ヘイ」ギイ子「ア」グ「ニ」ヤ

「カリ」バ「テ」ヨシ「お」レイ「オ」ウ「チ」イ「モ」ス「エ」イ「テ」ス「ア」リ「テ」ス「ア」メル「ク」シ子

「エ」ウ「シ」子「ア」メル「ギ」子「リ」ウ「コ」タ「コ」ス「フ」セ「イ」コウ「ア」コス「メ」ラム「ヘ」シ

「キ」ツ「タ」ム「ヘ」シ「ア」ナ「モ」タ「メ」ノ「シ」是ナリ

性「ガ」レ「ニ」ユ「ス」ノ「説」説「海」海「毒」毒ノ「切」アリ「テ」ザリ「収」収「斂」斂ヲ「果」子「又

寒濕の帯布ト

主治

チヨスヨリデス曰此子あヲ搗キ貼ルウイルトヒールヲ

治スルニ甚良ナリ且諸息内火傷小瘡ノ初發及惡

瘡乃諸熱腫硬腫ニ用一又黒小瘡ニ用ユト又エノ

此州汁ニケルイセシヲ和シ製シテコロセ及ウイルトヒールニ

注ギヤ治甚速ナリ且諸熱腫及熱瘡ヲ和スト

○右ノ汁ヲホツケンリユート一名セラテユムセイフリユム和

貼ル脚氣發スル痛風ヲ治スルニ良ナリ○フリユムモ

サマセテ卷テオナセ早ニ云フ之ヲ脚痛又ハ脚ノ痛風

ニカイテシスウエール及テラセープリアセラセーブルセワスレ

分量ホト和シ貼ス但是エーラセイフリヤレノ代ニハセラテユ

セーフリユムヲ換用スト今ツル局ニ能ク之ヲ知ル○チヨスコ

リデス又多ク説アリ曰此汁久咳ヲ治シ又口中ヲ屢漱

クハアマンデル腫ノ焮熱ヲ治シ其疼ヲ和シ硬腫緩

解スト○此汁コロセ油ヲ和ノ身中ニ注ケハ其疼ヲ和ス

○新本早家ノ説ニ之ヲ廿四葉服スルハ小便ノ澀滞スルモノ

ラノ此酒通利セシト○此葉は巴且香ヲ和シ汁楸或膏
状ニレ傷処或ハ疥癩ニ貼テ石淋淋疾及膀胱ノ間塞ラ
治ス○又或ハ此葉ヲ和ルヘセイ酒又ハカンヂヨツセシ酒楸ノ
強酒ニ巴且香油ヲ和シ用ハ速ニ瘵ヲ和ス○此葉ヲガ
揉ミ瘵ニ貼スレハ出血ヲ止メ其瘵ヲ愈ス之ヲ貼スルコト
三日之間瘵修スルヲナク三日ノ後ニ至テ更如スヘシ

附考

カリユスクリシウスレ其多量多譜四卷才廿六章
三種ノ多ヲ載テ其ハハバリエイタリヤシルヘストリス一名ウイテ

ガラスコロイド名ルモノノ其形状ト記スル処ノガラスコロイドト
ニハ似カルモノニ種ニ其名ヲ有スルニ何レノ其ハニ無シ是
等ノモノアレハ格別ノ大理ハアルヲナシ○斯ニハ其才一種
ノミヲ記シ自餘ノ二種ハカラトクソゴニム一名オトゲトロースト
ゲワスフナメラムペイリム一名ペレツブルメン一名オトゲトロースト論セシ
國人ノ野生ガラスコロイド此葉ハ直ニノ方茎佐節刺衝アリ
テ其高サ一尺許ニテ粗糙ナリ每節ヨリ兩葉相對生シ
本ハ厚潤ヲ漸次ニ狹ク尖リ高ク粗糙ナリ其茎

及脇木、上面、許多ノ小葉、相攢簇スルモノアリ、缺刻
 柔毛アリテ色ハ紫ヲ帯ヒ或ハ其ヨリ灰色又或ハ暗
 色ナルモアリ、其景愛スベシ天ヨリ濃藤色ヲナシ、其中心
 毎ニ凹ミ相對スルニ花ヲ生ス、纖毛ニメ肥ヘサク、咲開シ
 上唇ハ稍アリ屈シ、其最下唇ハ稍潤クメ下方、
 脚ル始ハ黄色ニシテ漸次ニ黄金色ヲナス、其花ハ相對
 ストイヘ、ホルトウワイトケイセンテ花ハ白色ヲ帯ヒ冬ニ至レハ大
 抵消散ス、ツシガセフ樹叢ニ生シ又或ハホンゲレインシ及東國及

ドイツ、ベイルムス、國ノ森林ニ生シ五月華ク
 ハレリユスコンヂユス名ハロンデレ名ガベトニー名一種
カラスコロイドシ
 此名ノ處ノヘルバヘンテシヲモ亦此名ヲ被冒ラシム
 此名ノ處ニ壁或ハ地又ハ破石ノ處ニ多シ又諸邦ニ
 アリ是以

小葉

主派

人モシ、其ヨリ隆チ打撲、内挫スル時ハ此名ノ或ハ

ホツケシ或ハコトイテシロイトシテ膏ヲ作り貼スベシ
○此子水或ハ酒ニ煮服スレハヨク久咳ヲ治シ結石淋疾
及小便不利ヲ治ス其勝是ノ諸患ヲ治スル膏ニ内服
良ナルノミナラス尚氷煎シ外敷ヨリ膀胱ヲ温厚シ
甚良ナリ○此草單味附貼ノ疥癬アリテ毛髮脱落
スルヲ治シ又ウツテヒイケシ及瘡瘍ヲ治ス○又
少ク搗ラ以テ摩リ附貼ノ乳ヲ過シ燻ヲ治ス○又
此子水漬シ脚膝ノ痛アルモノヲ蒸スハ痛風ヲ治ス

○又搗末シヘレシスライセシヲ和シ多量ニ貼スハ劇甚ノ功
アリ○又搗末シ酢ニ和シ温テグレウクシノ上ニ貼スハ其
痛ヲ和ス○此葉新牛酪或カプレスモウトシテ以テ烘シ
膏拵シテ腹上ニ貼スハ痲痛ヲ治ス○此膏拵ノモノニ
蒸餅ヲ搗キ百合油薑椒油苦ソ意油ヲ和シ貼メ婦人
ノ乳癆ヲ散れス○ガラヌコトトシハ氷鏡及治法ニ用
テ良ナリ○イタリヤシノ昂光ハ此子ヲ搗キ或ハ末トシ
軟シメ其咳及呼吸短息ヲ治ス其之ヲ用テ前ト

当テ宜ク先リ此子汁ヲ清潔ニスヘシ〇ホルヒルステイン
ヲ攪キ此子汁中ニ入レ除却メ湯萬ニ貼スル夏ニ疾作
知ス〇モシ人一二ノ神経ヲ切断スルヲアラバ宜ク大ハツテ
ヲ以テコレイフ油豆粉油切メレンシ及ナル空シ油ヲ以テ此
草ノ葉ヲ煮テ其上ニ貼スヘシ〇

殊用 此子ノ類ニ人身ニ用テ良ナルノミナラスニ媚子蓋

及如此類ヲ磨テ輝キアラシム

イ十九草 此子ケシスコロイトト一名ボルセケシスコロイト

形状 此子ケシスコロイトトハ始メ其根ヨリ纖長ノ葉ヲ生

ス其周圍深ク刻アリテラケツトトノ如ク長ク地上ニ布
行々其後細茎直立シ自餘ノ脇枝ヲ分ツツ葉ヲ
生スルヲラケツトトニ似タレ凡其ヨリサク小ナリ其葉上
ニ齋列ニノ小トニ白花ヲ生シ花謝メ后子ヲ其莖中
ニ結フ其莖小葉平扁ニ廣下狹形似ハツル
以テ是名ヲ得タリ〇根ハ長ク白クノ鬚アリ〇此子ノ

齋ノ草

生スル処ニ因テ至小極大ノ分別アルヲ以テ別種トナス
又其内ニ甚小ノ分アリ

出處一道路ノ点地崩家ノ壁多石ノ地ニ自燃生ス
ト云フ如ク其處ニ由テハ大小アリ

時辰 全夏生華キ且子熟ス

名義 此字ラテンニ通名ノハストリヤヒユルサニルサハ

ストリスニ又ペラバストリストモ云フポーゴドイツニセイセル
或ハテシキルカラウトト云 和黨ニホセケニスコイト一名テスケニス

コロイトト云フラニスニホルウセデバステウニオウベルゲルト云

性 清涼ニ燥 甚枚敷ノアアリ

主治 此草汁或水サ煎ヲ服スルハ出血又ハ崩血ヲ止

又或ハ膏ヲ搗或糊瀉ノ如クシ又ハ治シ或ハ浸ノ其上ニ
貼ス其能法アリ又水鏡ニ用ルハ赤利ヲ治ス又金

創出血ヲ治シ瘡瘍燂熱ヲ清冷シ或ハ之ヲ敷散ス

附考 此字田ク甚軟ニシテケツト及白モヌトルトニ似ヌ

レニサク小ナリ子ハ小ニメ黒ク且多分 六七月ニ華ク此

子小なりヘルテシシ、似タレバ、是誠^誠は相似タレラ
以テケレイ子ヘルテシシ、形状名目ヲ附スルナリ、花ハ
テラスピニ又是似タリ、沙荷カワナ子○小ナルセシコロイトハ蓄息スルモ
翅ハ一掌或ハ五寸許シ、其最下ノ葉ハ地ニ布在シ且
尋常ノモノヨリハ十回小ナリ、否ウカレハ亦是似タリ
○此子ガリシヤシ及ラテシシテ古ハ其名ヲ命セカレモノ
ニメ我徒始テ稱スル処ナリ、是古昔ハテラスピノ種
類ニ算入セシナリ

至流一ロヘシ云、此子テラスピノ種トナストイヘル

其味痛甚シキカズ、但燥シテ清涼ナリト○此草
血尿及諸般ノ下血ニ大功アリ、是翅、子、保持シ或
ハ身ニ負擔スルモ、其血出ラ當上スルニ大功アリ○テス
ケンスコロイトシ雨水ニ煮カケテブレイシ或ボリユスレテ和シ一
二日之ヲ煮シ服シ或ハ水鏡トナシ用テ痢及赤利ヲ
治ス○又此子ノ煎汁ヲ以テ治スレハ、婦人月水前流ヲ
止メ○又之ヲ身中ニ注テ、其患場ヲ治ス之ヲ鼻中ニ

刺ノ血ヲ去^ル○^ハ心^ニ血^ヲ止^ルニ其^レ強^烈ナル
 二六其^レ性^ハ寒^{ナリ}一ノ證^ヲ見^ハルニ何^レ者^モ其^レ脉^ノ及^チ死^ニ
 サク辛^味アリ夏^ノ燥^及收^斂ニ由^テ血^ヲ出^テ止^ルルニ
 シテ^ハ心^ノ計^及丹^凡及^チ子^ノテ^レノ如^クニ清^涼ニ由^ル
 ニアラズト○^ハ心^ニコレ^ニスコ^ロイト^トラ^クブレ^イレ^ル和^シ皮膚^ヲ
 或^ハ脉^ノ偏^スル^ニ類^シテ治^ス其^レ病^一ニノ適^良ノ下^割ラ
 以^テ其^レ身^ヲ清^浄スヘシ○和^シ蘭^ノ婦^人ハ世^ニ其^レ病^ヲ
 細^截シ雞^卵ヲ和^シ以^テ血^ヲ出^テ去^ル○或^ハ世^ニ其^レ病^ヲツキ

足^心ノ附^點ノ黄^疸ヲ治^スルニ大^切アリ○^ハ心^ニコレ^ニスコ^ロイト^トラ^ク
 テハ世^ニ其^レ病^ヲ揚^テ以^テコレ^ニスコ^ロイト^トラ^クブレ^イレ^ル和^シ皮膚^ヲ
 大^切アリ○或^ハ世^ニ其^レ病^ヲ中^ニコレ^ニスコ^ロイト^トラ^クブレ^イレ^ル和^シ皮膚^ヲ
 ハ疫^熱ヲ治^スルニ其^レ最^モ稀^スベキハ世^ニ其^レ病^ヲ汁^ヲ以^テ膏^ヲ
 ラ作^リ一^ニノ^ハ心^ニコレ^ニスコ^ロイト^トラ^クブレ^イレ^ル和^シ皮膚^ヲ
 ル^ハ其^レ旧^力ヲ^復ハガ^ルト^シ

オニナナ草 デウルワス一名「ベルホリアタ」及「ハツカリヤ」

品類 此草ニハ二種ノ草ノ稍々相似テ又其分別アルヲ

記ス即「ベルホリアタ」及「ハツカリヤ」ナリ

形状 「ベルホリアタ」一名「デウルワス」ハ其茎細ク圓クノ禿

ナリ高ク一尺餘ヲ許多ノ枝ヲ分チノ葉是ヨリ茎ヲ包テ

エシ茎又且ノ葉ヲ貫透ス其葉ハ潤ク禿ニ滑ニ數多ク

脉理アリテ色ハ淡緑色ナリ小葉其茎梢ニ射状ニ集リ其

小葉間ヨリノ極テ小ニサク黄色ナル花ヲ生シ花謝ノ后少ク

黒ヤテヲ結テハレイエノミヨリハ大ナリ根ハ單ニテ少ク而シ
白リ又鬚根少シ

王不留行

オニ種ハツカリヤシ或人々ヲテウルワスノ一種ニ充ク高サ一尺ハ
シ子ヨリ高ク茎圓ノ節アリ滑ク又脇枝ヲ券ツ其每
節節ヨリノ長ク而葉ヲ生ク亦秀ニ滑ニ尖リテ而葉正對
シ其最下ニ茎ニ固着スル一葉ノ如シ其最上枝ニ軟
ニホキ小花アリテ圓キ蒼楢中ヨリ生ス其蒼ハ薄皮ヲ覆
テ大抵ウイルデキリステニスオードン或ハウイルデー子ツテハシ

似テ黒子ヲ其中ニ成熟ス殆ントクランシエム或ハニゲルヒ子如シ
根ハ鬚根ニ分レ全草淡綠色ニ白ク見ユ

出處

オニ種テウルワスハ田畠ニ自生シ生ス「ベームデン」國ニテハ

曠野ノ傍邊ニ生シイタリヤドイツ及ボヘイメンニテハ園中ニ
種ユ

オニ種ハツカリヤシ而野外或田其中ノ肥田ニ生ス

時度

「テウルワス」ハ多ク分セ八月ニ華ク而ノ子熟スルハ全草

消散ノキヲ経ルナシ
ハツカリヤシハ初夏ヨリ秋ニ

至テ子具爛ニ熟ス

名義

オ一種ノモノヲ新本ヤ家ヲシシニシテベルリアテ或ハ

ベルリアアテト云是其茎ノ葉ヨリ顯出スルカ為ナリ是以和爛

ニハテウルブラトト一名デウルワスト云フホーゴドイツニテエルスワスシ

一名ニエルクワツツブリユクウエルツト云フフランスニベルリアアテト云

エンデルスニトロウワクセト云

オニノハツカリヤレゲス子

リユスシエラリイヘルベルリアアタリユブラト云赤色ノテウルワス

ニ義ナリハレリウスコルニエスシエラメツコチモント云是晶眼ニテ

見ルハハガラストユビ一名ウエイトノ如ク見ユレ其青色ヲ深ルニ

至テハウエイトノ如ク其色ヲ出サズ

性

一種ノテウルワスハ中等温ニシテ少ク燥ナリ少ク苦味收斂

ノ功アリ

主治

テウルワスハ疥癩ヲ愈治ス諸物品ノ中ニ算入ス此ヲ煎汁

及末ハ損傷又ハ高ヨリ隆タルモノニ用ユ又腸裂或ハ腸ノシシ

チンゲンニ甚補ス就中少兒ニ尤佳ナリ又小兒ノ疳積ニ此草ノ

新鮮ニモウ麥粉葡萄酒ヲ和シ搗テ糊搗ニシ其ニ貼スハ

夫ヲノ後收セシムノ前法ノ如クシ用テ喉腫ヲ治ス

附考

此草ニ其花愛スベシ且ツ美者ノ圓射アルモノアリ多ク

「**フース**」川ノ岸ニアリシテ諸病ノ好草家ノ園ニ種ユク花黄

ニメ其「**コロッポ**」ケニスハ星ノ如クニ崩サヌ其子ノ味ハ「**テレメン**」テイシ

ヘイペリキユム或ハ「**レイメ**」ニ似タリ〇此草切リテニ大ニ似タリ

是以テ「**フラス**」ノ余ニテヲ論セシ

「**エング**」セルセンゲホ「**ウエン**」ドールウス
「**メット**」ブラー「**テルス**」ハンステツケラペン

「**ロー**」ベル云此草「**ラテン**」ニベルホリマタ「**ピ**」ホリヤ「**アン**」ダロ「**ユ**」シリキ「**エ**」サシ

ト云クルシウスハ「**エ**」ラ「**コ**」ブラスシカカムベステニス「**ト**」云「**ヘル**」ト「**コ**」レ

ノ義ナリ「**イス**」ハ「**ヤ**」ニ「**コ**」ルレヨシト云フハ小「**コ**」ルケン「**ノ**」義ナリ「**エ**」ラ

或人「**ド**」ールウス「**ノ**」一種ニ充ツト「**イ**」ハ「**元**」尚是疑質ナリ「**ウ**」ン「**テ**」ル「**ケ**」ル

スセシト「**ブ**」ニヤス「**ト**」ド「**ル**」ウス「**ノ**」間「**ヤ**」リ諸知「**ノ**」アレ「**元**」多分「**熱**」國

ノ諸山「**ヤ**」リ葉ハ大ニメ長ク粗ニメ肥ハ且堅シ「**サ**」ク「**江**」牙出「**ノ**」テン「**テ**」

ルオリヤ「**ニ**」似タリ「**志**」長ク薄ク角アル英アリテ「**ビ**」オリ「**レ**」シ

ノ如ク其子ノ充実スル「**フ**」ビオリ「**レ**」シ「**及**」「**コ**」レシ「**ノ**」如シ「**長**」味ハ

「**サ**」ク刺戟ニ高ク「**年**」シ「**種**」此草「**ノ**」「**ハ**」臨「**コ**」レシ「**ノ**」余ニ讓説ス

アニハドルルスモ大ナルモノト云似たり多クテユリシト國ニ

王ス

オニ「ゲヨル」一名「ゲヨルケル」ゲドルルスハ常ニ尋常ノドルルス
ノ子ヲ輸メ此子ヲ得ルコトヤシ

オ四山ドルルスハ於大保持ノ味ニヤシ

「ハツカリヤ」ド「子ウス」説ニ違ヘ凡「ロトヘル」ハ之ヲ「グイル」テウー

テント名ク「オセイ」テスレ云「エン」ルハ「コウ」ハシルレト云我之ヲ「ウ」
テ「附考」ニ「廣」載セカ如シ

主治

此草ノ中ニモ「テ」リンゲル國生ノ小ナルヲ小片ニシ搗キ貼
スレハ諸部神経ノ息肉ヲ分散スルニ大功アリ○此生葉搗テ
蒸上ニ貼スレハ乃治ス○子モ亦未トヤシ煎治ノ如ク用ユ○又「ブ」
カリユルヲ「和」シ諸息肉ニ貼メ分利シ且其息大ヲ拒ル○此露水
諸走「「ホル」ト「ロ」ム「ン」デ「ス」」
諸走「「ホル」ト「ロ」ム「ン」デ「ス」」
今ニ到マテ其功ヲ記スルモノアラズ

Handwritten text in vertical columns on the right side of the right page.

六十五
九月

